

地球市民社会で私たちにできること

所属	愛知県立三好高等学校	実践者	油科 里佳
対象	高校3年生	時間数	9時間
場所	教室	実践教科	政治・経済
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・地球市民社会で暮らす一員の自覚を持たせ、世界で起きている諸問題に関心を持たせる。 ・課題意識を持ち、問題解決のためにできることを考えさせる。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	○『わたしたちをとりまく世界』 ①アイスブレーキング「仲間を探そう」 ②アクティビティ「お世話になったもののリスト」 ③アクティビティ「コミュニティ分析」 ④まとめ：自分が社会的人間であることを自覚する。	
	2・3	○『日本とエチオピアを比べてみよう』 ①ワークシート「エチオピアってどんな国？」を記入 ②アクティビティ「フォトランゲージ」 ③アクティビティ「日本とエチオピアを比べてみよう」 ④アクティビティ「日本とエチオピアの比較表をつくらう」 ⑤まとめ：「貧困」の存在に気づく。	
	4～6	○『どうして私は貧しいの？』 ①映画「おいしいコーヒーの真実」を鑑賞 ②アクティビティ「貿易ゲーム」 ③ワークシート「南北問題を知る」を記入 ④まとめ：途上国の貧困の影に先進国の存在があることに気づく。	『おいしいコーヒーの真実』（2006） 『新・貿易ゲーム—経済のグローバル化を考える—』（2009）
	7・8	○『経済援助は貧困を削減できるのか？』 ①アクティビティ「コーヒー農園を救済するには？」 ②ワークシート「戦後国際援助の流れ」を記入 ③まとめ：日本をはじめ、先進国の多くが途上国への支援を行っていることを知る。	『持続可能な目標（SDGs）とセーブ・ザ・チルドレン』（2014）
	9	○『地球市民社会で日本がなすべきことは何か？』 ①アクティビティ「SDGs カクテルパーティー」 ②アクティビティ「SDGs 達成論文を書こう」 ③まとめ：世界で起きていることでは他人事ではないことを自覚する。 無関心ではなく、興味を持つことの重要性に気づく。	
成果	授業者自身が撮影した写真や経験したエピソードを切り口にしたことで、他国で起きていることに関心をもつ生徒が多く見られた。貧困問題の構造を深く理解する生徒も多く、生徒自身の力でバラエティに課題解決の方策を考えることができたことは、非常に大きな実りであったと感じる。		
課題	上手く一つひとつの授業の関連性を結びつけられなかった生徒がいたのは、課題だと感じる。「楽しい」で終わらせないためには、一回ごとの授業の復習が大切であると考えた。		
備考			

[授業実践の詳細]

1 時限目「わたしたちをとりまく世界」

この時限のねらい

- ・自分の生活を振り返り、人間が社会的動物であることを再認識させる。

1 子どもの活動の流れ

- ① アイスブレイキング「仲間を探そう」を行う。
 - ・お題1: 自分と同じ市町村に住んでいる仲間を探そう。
 - ・お題2: 自分と同じ誕生月の仲間を探そう。(サイレント)
 - ・お題3: ご飯に合うおかずの仲間を探そう。
- ② 「お世話になったものリスト」を作成する。
 - ・昨日から今日にかけての自分の生活を振り返り、自分が使ったもの、関わった人などをリストアップしていく。
 - ・仲間と見せ合い、書けていなかったものを書き足す。
 - ・リストを見て、カテゴリー分けする。
 - ・どんなものが多いかを確認する。
- ③ 自分の所属しているコミュニティを分析する
 - ・自分の所属するコミュニティをリストアップする。
 - ・コミュニティの円を描く。重要度が高ければ、大きく描く。
 - ・自分の所属度に応じて、その円の中に点を描く。
- ④ 振り返り
 - ・今日の3つのアクティビティを振り返り、気づいたことを記述する。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 「仲間と活動するのが楽しかった。」
- ◇ 「予想以上にいろいろな人、ものに頼りながら生きていることがわかった。」
- ◇ 「友達がたくさんいて幸せ。」

2 時限目「日本とエチオピアを比べてみよう1」

この時限のねらい

- ・エチオピアのことを知り、興味を持たせる。
- ・エチオピアと肯定的に出会わせる。

1 子どもの活動の流れ

- ① ワークシート「エチオピアってどんな国？」を記入する。
 - ・エチオピアの基本的な情報を知る。
- ② フォトランゲージを行う。

- ・グループを6つ作り、1人の人物が写った写真、その人のバックグラウンドのヒントになる写真を5枚ずつ配布する。
 - ・写真に写っている人がどんな人か何が写っているかを仲間と想像する。
 - ・各グループに答えの紙を一枚配り、仲間と共有する。
- ③ 日本とエチオピアを比べてみよう1
- ・次回の授業でそれぞれ与えられたテーマでグループごとに日本とエチオピアについて発表することを知る。
 - ・各グループの写真に関連するテーマに沿って、日本とエチオピアの事情を発表する原稿、プリントを作成する。(テーマは、学校・教育・インフラ(水以外)・水事情・おもてなし・伝統料理)

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 「日本とまったく違うから、写真の人物のことを想像するのが難しかった。」
- ◇ 「日本とは全く違うから、びっくりした。」
- ◇ 改めて日本のことを紹介するのは、少し難しそうだったが、限られた時間の中で、また自分たちの視点で発表原稿を作成することができているように見えた。

3 使用した教材

<教材1> エチオピアの写真

3 時限目「日本とエチオピアを比べてみよう2」

この時限のねらい

- ・自分たちが得た情報を、自分たちの言葉で伝えさせる。
- ・クラスメイトの発表に興味をもって耳を傾けさせる。

1 子どもの活動の流れ

- ① 「日本とエチオピアを比べてみよう2」を行う。
 - ・指名されたグループから順番に発表を行う。
 - ・他のグループが発表しているときは、他グループの発表を評価する。
 - ・他のグループの発表を聞いてわかったことをメモする。
- ② ワークシート「日本とエチオピアの対比表」を記入する。
 - ・発表を聞いて気づいた日本とエチオピアの違いを対比表に記入する。
 - ・指導者に指名された数名が、記入内容を発表する。
 - ・板書された違いのうち、あっていい違い・あってはいけない違いを区別する。違いの特徴を考える。
 - ・多様性はあってもよいもの、命に関わるものはあってはいけないもの、ということに気づく。
 - ・指導者から、「貧困」の存在について伝えられる。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 「日本とエチオピアを比べてみよう」では、みんなに聞いてもらえる発表にしようと、工夫をしている生徒も多く見られた。
- ◇ あってはいけない違いが生じる原因について発問したとき、「貧しさ」というキーワードに、自ら気づく生徒もいた。

4 時限目「どうして私は貧しいの？」

この時限のねらい

- ・エチオピアの貧困の理由を考えさせ、そこに先進国の存在があることに気づかせる。
- ・エチオピアの貧困の状況を具体的に知る。

1 子どもの活動の流れ

- ① 資料「エチオピア産のコーヒー事情」を読む。
 - ・エチオピアのコーヒー農家の事情を知る。
- ② 映画「おいしいコーヒーの真実」を鑑賞する。
 - ・ワークシート「おいしいコーヒーの真実を鑑賞して」を記入する。
 - ・気づいたことも自由に記述する。
 - ・コーヒー農家がなぜ貧しいのか、を考える。
 - ・指導者に指名された数人が、貧しい理由を発表する。
- ③ 貧しさの影に先進国の存在があることを知る。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 「コーヒー農家の稼ぎが少なくて、学校に行けない人がいたり、困っている人がいた。」
- ◇ 「貧しさのあまり、麻薬を育てている人がいることに驚いた。」
- ◇ 「先進国の販売価格とエチオピアでの取引価格に差があつて可哀想だと思った」
- ◇ 労働に見合った対価を得られていない人が多くいることに驚いている生徒が多いように見えた。

3 使用した教材

- <教材1> ドキュメンタリー映画『おいしいコーヒーの真実』
 /ニック・フランシス、マーク・フランシス監督 2006

5 時限目「どうして私は貧しいの？2」

この時限のねらい

- ・世界の貿易における、不平等な構造を体感することで、理解を促す。

1 子どもの活動の流れ

- ① チーム分けを行う。
 - ・チームA: 人数4人。紙1枚。はさみ2個。コンパス1個。分度器1個。定規1本。鉛筆3本。クリップ20個。
 - ・チームB: 人数4人。紙1枚。はさみ1個。糸切りばさみ1個。コンパス1個。分度器1個。定規1本。鉛筆3本。クリップ20個。
 - ・チームC: 人数6人。紙5枚。定規1本。鉛筆1本。クリップ5個。
 - ・チームD: チームCと同じ。
 - ・チームE: 人数10人。紙20枚。鉛筆1本。クリップ2個。
- ② 「貿易ゲーム」のルールを聞く。
 - ・配給されたものを確認する。

- ③ 「貿易ゲーム」を行う。
- ④ ワークシート「貿易ゲームを終えて」を記入する。
 - ・自分のグループの状況、周りの状況などで気づいたことを自由に記述させる。
 - ・貿易ゲームを通して感じた感情を自由に記述させた。
- ⑤ 指導者から貿易ゲームで起きたことが現実世界でも起こっていることを聞く。
 - ・エチオピアのコーヒー農園と結びつけ、貧困が起こっている原因を考える。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 「誰も助けてくれなくて悲しかった」
- ◇ 「交渉力は大切だ」
- ◇ 「人ばかりがたくさんいて、仕事がないことがこんなに苦痛なことだと初めて気づいた」
- ◇ 「みんなケチ。自分のことしか考えていない。」
- ◇ 「あそこまで差があると追いつけるわけがない。」
- ◇ 感情を疑似体験できた生徒がたくさんいて、南北問題に問題意識を持ち始める生徒が多くいたように見えた。

3 使用した教材

<教材1> 『新・貿易ゲーム—経済のグローバル化を考える—』／開発教育協会 2009

6 時限目「南北問題を知ろう」

この時限のねらい

- ・南北問題、南南問題の状況と経済発展を学ぶ。

1 子どもの活動の流れ

- ① 貿易ゲームのまとめを行う。
 - ・貿易ゲームの感想、状況を改めて共有する。
 - ・貿易ゲームの勝敗には「格差」があったことを認識する。
- ② 南北問題、南南問題について学ぶ。
 - ・プリントを利用し、南北問題、南南問題の状況を学ぶ。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 貿易ゲームの状況がどのように進んでいたかを改めて確認することができた。

3 使用した教材

<教材1> 『政治・経済』／東京書籍 2016

7 時限目「経済援助は貧困を削減できるのか？1」

この時限のねらい

- ・南北問題に興味関心を持たせ、今までの授業で学んだことを考慮し、コーヒー農園の救済方法を考えさせる。
- ・エチオピアでの先進国からの支援を学ぶ。

1 子どもの活動の流れ

- ① 「コーヒー農園を救済するには？」を行う。
 - ・『おいしいコーヒーの真実』で見た、コーヒー農家の救済方法を考える。
 - ・グループごとに考えた案を発表する。
- ② JICAを始め、先進国による支援とその成果を学ぶ。
 - ・資料「エチオピアのコーヒー農家への支援」を読み、指導者の講義を受ける。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 「貿易協定を結ぶ」「他の国に出稼ぎに行く」「学校をつくる」など、問題意識の違いから多様な意見を出していた。
- ◇ 日本のコーヒーメーカーがエチオピアに支援を行っていることに対し、親近感を持つ生徒が多く見られた。
- ◇ 貧困の原因から、各グループで懸命に案を出し合っていた。今までの授業の集大成として、考えることができていた。

3 使用した教材

<教材1> エチオピアの写真

8 時限目「経済援助は貧困を削減できるのか？2」

この時限のねらい

- ・南北問題、南南問題の歴史的変遷、経済発展の状況等を学ぶ。

1 子どもの活動の流れ

- ① 「戦後国際援助の流れ」の講義を受ける。
- ② ミレニアム開発目標(MDGs)を知る。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 国際援助に関する理解を深めることができた。

3 使用した教材

<教材1> 『政治・経済』出版社:東京書籍

<教材2> 『ミレニアム開発目標(MDGs)とは』/外務省 2014

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/doukou/MDGs/about.html#goals>

9 時限目「地球市民社会で日本がなすべきことは何か？」

この時限のねらい

・授業の集大成として、自分たちにできることを自分の言葉で表現させる。

1 子どもの活動の流れ

- ① 持続可能な開発目標 (SDGs) を読む。
 - ・それぞれ1つの目標を分担して読み、自分の言葉で発表原稿をまとめる。
 - ・カクテルパーティー方式で、自分と異なる目標を持っている人物を探し、目標を発表し合う。
 - ・答え合わせをする。
- ② 自分の気に入った SDGs を選び、これまでの講義を参考にして、その目標に関する小論文を書く。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ SDGs を知る方法をゲーム方式にすることによって、より興味を持って取り組むことができたように思う。
- ◇ 全授業の集大成として、今までであったことを思い出しながら記述していた。
- ◇ 理解度に差があったが、「貧困」というキーワードを手がかりに思いを綴れている生徒が多く見られた。

3 使用した教材

<教材1> 『持続可能な目標 (SDGs) とセーブ・ザ・チルドレン』/セーブ・ザ・チルドレン 2014
http://www.savechildren.or.jp/news/publications/download/SDGs_child_friendly.pdf

■ 全体を通して

1 授業の様子



2 参考文献・資料

- 1) 『政治・経済』/東京書籍
- 2) 『ミレニアム開発目標 (MDGs) とは』/外務省 2014
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/doukou/MDGs/about.html#goals>
- 3) 『持続可能な目標 (SDGs) とセーブ・ザ・チルドレン』/セーブ・ザ・チルドレン 2014
http://www.savechildren.or.jp/news/publications/download/SDGs_child_friendly.pdf